

特色ある大学院プログラムの紹介

1 授業を対象とした 総合的実践的研究と教科教育の重視

教師が子どもを理解し、教材を理解し、学習を援助していく力を獲得していくためには、授業に関する研究が必要です。その授業は、複合的で実践的な側面が強いので、教育研究者のみならず、心理学の研究者、文学、自然科学、芸術等の学習内容にかかわる専門家による、多様な視点からの総合的な研究が必要です。それはひろく人間の研究、文化の研究に連なるものでもあります。

本研究科では、教職が自律的な判断や選択をもとめられる専門的な仕事であるにとらえ、そのために、教科教育学と教育内容学を実践的科目として位置づけ、さらに、両者を結びつけるものとして「教育実践基礎研究」を設けています。

2 附属学校園・公立学校との連携

香川大学教育学部は、二つの附属小学校、二つの附属中学校、附属特別支援学校、附属幼稚園があり、さらに幼稚園は坂出と高松に二つの園舎を設けています。こうした恵まれた環境のなかで、カリキュラムのなかに附属学校園での学習を取り入れ（例えば、「教育実践基礎研究Ⅱ」など）、実践、実習の場として活用していきます。各教科教育の「特別演習」科目では、附属学校園の協力を前提として構成されています。

また、教育実践に関する理論的研究と実践的・実証的教育研究との有機的結合を図るために、附属学校園のみならず公立学校とも連携し（例えば、「教育実践発展研究Ⅰ、Ⅱ」など）、理論の実践化と実践の理論化をめざします。

3 教育実践総合研究コースの設置

本コースは、教育学研究科と香川県教育委員会、公立の協力校および附属学校園との連携協力のもとに、教育実践力の向上を目指すコースです。「教育実践基礎研究Ⅰ、Ⅱ」「教育実践発展研究Ⅰ、Ⅱ」において、専攻専修の枠を超えてチームを組んで事例検討を行うとともに、実際に附属学校園や公立学校において観察実習や実習を行い、そのことを通して修士論文を作成します。じっくりと時間をかけた教材研究、授業実践、省察は大学院ならではのコースです。1年次の11月にコース履修申請書を提出します。

4 実習の場としての 特別支援教室「すばる」と「心理臨床相談室」の設置

本学部に設置している特別支援教室「すばる」は学習障害、注意欠陥／多動性障害、高機能自閉症、アスペルガー症候群等の発達障害が疑われる子どもを対象とした通級教室で、全国的にも注目されています。そこでの実践と研究成果が、大学院での実と研究に反映されています。

また、「心理臨床相談室」は心の悩みや心理的・発達の問題を抱え、援助を必要とする方に対して専門的支援（外来相談）を行うとともに、臨床心理士を養成訓練する機関です。大学院生は相談室で実際の相談を担当し、そのスーパービジョンを受けることで、心理臨床の実践力を身につけていきます。